

令和8年5月26日
学校健康推進課

区立学校における検査機器を用いた脊柱検査の導入について

1 主旨

脊柱側弯症は、成育過程において好発し、発症した場合はその後生涯にわたり遺残して生活の質を低下させるため、早期発見・早期治療が重要な疾病である。(別紙参照)

国においては、成育基本法に基づき、令和3年2月に「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」を閣議決定し、この方針内に学童期における脊柱側弯症の早期発見が盛り込まれた。これを受けて、文部科学省は「脊柱側弯症検診に関する調査研究事業」を実施し、「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」(令和6年3月)をまとめるなど、脊柱の検査の意義や疾病への理解増進を図っている。

現在、区立学校における脊柱検査は、内科健診の中で視触診等により行われているが、専用の検査機器を用いた脊柱検査を実施することにより、より正確で均質な検査の提供や、早期発見治療による児童生徒への負担軽減などの効果が見込まれる。

また、特別区内では、19区において検査機器を用いた脊柱検査が導入されている。

こうした状況を踏まえ、検査精度の向上や効率化、より早期の側弯症疑いの発見につなげるため、令和8年度から検査機器を用いた脊柱検査を実施する。

2 実施時期

令和8年9月～12月

3 対象者

区立小学校5年生 6, 389名

区立中学校1年生 3, 889名 ※令和8年2月1日推計値による。

4 検査について

(1) 検査内容

検査は機器によるスクリーニング検査を実施し、有所見者については結果を通知したうえで、整形外科への受診を勧奨する。

(2) 検査事業者

入札により決定する。

(3) プライバシー配慮について

児童・生徒に対するプライバシー配慮のため、「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」(文部科学省発行)に沿って、ついたてやカーテンを用いるなど、学校の協力を得ながら、児童生徒のプライバシーを保護し、安全かつ正確に検査できる環境を整備する。また、女子の検査においては、介助及び検査機器を操作する検診従事者には、必ず女性スタッフが従事することで、安心して検査を受診できるよう配慮する。

5 費用(概算)

13, 596千円

6 今後のスケジュール（予定）

令和8年6月 検査事業者決定

検査事業者、学校、医師会等と調整

9～12月 検査機器を用いた脊柱検査を実施

1. 脊柱側弯症及び検査機器を用いた脊柱の検査について

脊柱側弯症とは

脊柱側弯症とは、脊柱(背骨)が横(側方)に曲がった(ねじれた)状態を指し(図1)、主に、思春期の女子に多く発症するとされている(側弯症全体の約80%を占める特発性側弯症の初発兆候は思春期に表れるとされている。¹⁾)。側弯変形による心理的ストレスの原因や腰痛、背部痛、呼吸機能障害、まれに神経障害を伴うことがある。現在、学校保健安全法第13条に基づく児童生徒の健康診断においては、家庭による保健調査票等の情報を参考に、学校医が視触診等による検査を行っており、学業を行うのに支障があるような疾病等が疑われる場合は、医療機関への受診を勧めるなどの事後措置を行うこととなっている。

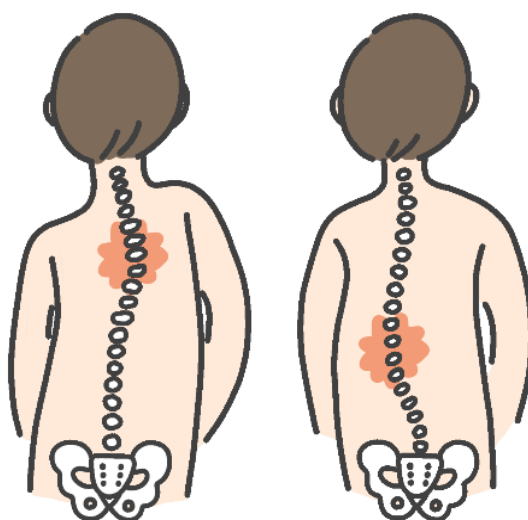


図1. 側弯症とは

検査機器を用いた脊柱の検査とは

一部の教育委員会では、視触診による検査だけでなく、専用の検査機器を用いた検査も行っている。検査機器を用いた脊柱の検査(以下、「検査機器を用いた検査」)を実施することにより、より正確で均質な検査の提供や、デジタルデータによる経年比較、早期発見治療による児童生徒への負担軽減などの効果が見込まれている。

検査機器について

検査機器を用いた検査で用いる検査機器は、様々なものがある。検査機器を導入する際には、地域の実情等に合わせて機器を導入することが望ましい。

検査機器を用いた検査の対象となりうる児童生徒

思春期に側弯症全体の約80%を占める特発性側弯症の初発兆候が表れるとされており¹⁾、この時期に検査機器を用いた検査を行うことも有効であると考えられる。側弯症は、個々人の成長にもよるが、思春期に突然発症し、急速に進行する場合もある。また、女子の方が有病率が高いとされているものの、男子についても思春期に側弯症を発症する場合があるため、思春期に男女共に行うことが有効であると考えられる。